

イノベーション人材育成推進教員活用事業の取組紹介

STEAM 教育の視点を生かした授業や探究的な授業に関する研究会や実験実技講習会等を行うことで、各教科等横断的な学習の推進と理科授業の質的向上を図り、児童生徒の理数分野への興味・関心を高めることを通して、資質・能力を育成することを目的に、白河市立みさか小学校と白河市立白河中央中学校において、イノベーション人材育成授業研修会を実施しましたので、ご紹介させていただきます。

第1回イノベーション人材育成授業研修会より（令和7年9月29日）

実験実技講習会（小・中）

<参加者の感想より>

- 各学年により効率的に事象がわかりやすい実験方法を学ぶことができました。また、学年をまたいだ系統性だけでなく、その学年の中での系統性を意識した指導が必要であると改めて学ぶことができました。
- 短時間でさまざまな分野の教材に触れることができたので、とてもよかったです。実験がうまくいかないことも生徒にとっては大切な学びですが、教師側に実験の豊富な経験があり、実験のコツを知っていることは重要だと思いました。予備実験だけでなく、生徒の実験結果から工夫や改善を心がけていきたいと思います。



福島大学人間発達文化学類 鳴川 哲也 教授による授業づくり講演会 「資質・能力を育む理科の授業づくりについて」

<参加者の感想より>

- 「理科を学ぶことの意義や有用性」についてのお話が一番心に残りました。全国学調の結果で本校の課題として見えたことが、まさにこのことでした。獲得した知識を通して一度その事象を見てみる。すると見えなかったものが見える。そのような経験を理科の時間で味わうことができるよう、授業改善を図っていきたいと思います。
- 「知の裏には未知がある」「知が大きくなるほど未知も大きくなる」という言葉に感銘を受けました。児童の学びの中で、この未知をどう解決していくか、解決した際にどのような「知と未知」が生まれるか…そのようなことを念頭におきながら児童への指導にあたりたいと思いました。これはもちろん理科だけでなく、他教科でも同じことが言えます。児童の問い合わせを生かした授業づくりに役立てていきたいと思います。



第2回イノベーション人材育成授業研修会より（令和7年10月9日）

単元名 6年「大地のつくりと変化」

ねらい 火山灰の層を観察し、含まれる鉱物の違いに気づき、その特徴を基に火山のはたらきによる地層の成り立ちを考え、観察したことや考えを自分の言葉で表現することができる。

授業者 白河市立みさか小学校 根本 翼 先生

<参加者の感想より>

- 理科の指導は、4年以上遠ざかっていたため、今回改めて学習指導要領を見直すよいきっかけとなりました。
- 授業を評価する際「主体的」「対話的」といった視点に頼りすぎていたかもしれませんと感じました。資質・能力を育成できたかどうかを評価し、授業に生かしていくことの大切さを改めて考えることができました。
- 私自身、国語科の教材研究に力を入れているので、改めて言語化することの大切さや、国語科の学習で言葉にこだわることが、他教科の学びにもつながることを実感しました。
- 理科の授業の進め方、めあてのつかませ方、本物の持つ力強さなど、授業を見なければ分からることを学ばせていただきました。少しでも近づけるように、日々の授業で意識していきたいです。
- 普段の授業から子どもたちのわくわくを引き出すために、実験方法を考えさせたり、考察をさせたりするトレーニングをしていきたいです。



第3回イノベーション人材育成授業研修会より（令和7年11月28日）

単元名 1年「身のまわりの現象 第2章 音の世界 第2節 音の大きさや高さ」

ねらい 音の高低を変化させる要因を見いだし、表現することができる。

授業者 白河市立白河中央中学校 和田 陽輔 先生

<参加者の感想より>

- 中学校の授業を参観して、子どもたちが進学しても不安のない授業を高学年でもしていきたいと思いました。
- 和田先生の事前指導が十分だったことで、実験について生徒全員が理解していた。振り返りの在り方について改めて考える機会となったので、自校で研鑽していきたいと思います。
- まとめや振り返りの時間が十分にとられていたことで、生徒は自分の考えを整理できるだけでなく、友達の様子や話し合いで学習したことまで書くことができていました。自分の授業では、短い時間しか振り返りの時間をとれないので、授業計画を見直し、振り返りの時間を増やしていきたいと思いました。
- 実験方法の予想、立案が丁寧になされていることを感じる授業でした。結果もすべての班で正しく、考察の活動につながっていました。条件制御の考え方も理解して実験していて素晴らしかったです。

